

高橋和之著『立憲主義と日本国憲法』有斐閣 2005年10月20日刊を読む

学習の手引き

1. (1)本書は、日本国憲法についての標準的な教科書として書かれており、本書が想定している読者は、大学で憲法を初めて学ぶ人たちである。日本の憲法の大まかな内容については、読者はすでにこれまでに中学あるいは高校である程度学んできたことと思う。しかし、本書が扱うのは、大学レベルで学ぶ憲法であり、その内容は相当高度なものになっている。しかも、丁寧な説明を心がけたつもりではあるが、紙数の関係で簡略な叙述にせざるをえなかったところも多々あり、最初は難解と感じられる読者も多いのではないかと懼れている。しかし、どんな学習でもそうであるが、教科書を一度読んですべてを習得しようなどと期待するのは、無理な話である。だから、少なくとも3回は読むつもりで学習を始めて欲しい。
 - (2)まず1回目は、とにかく最後まで読み切ることが目標である。分からないところは、分からないことを確認するだけで十分であると考え、気にしないでどんどん読み進む。幸い法律学は、数学などと違って、ある部分が理解できないと先に進めないなどということはない。それどころか、先に進むと、前の方で分からなかったことが分かってくることもある。だから、とにかく読み進んで読み切ることが目標にする。
 - (3)しかし、全部を理解する必要はないが、最低限、各部分で何が重要かのあたりはつけておく必要がある。講義を聴く場合には、先生のしゃべり方やジェスチャーで何が重要かが容易に分かるものであるが、本を読む場合には、外見上平板に見える記述に読者の側で起伏をつける作業が必要となる。本書でも、何がポイントかが読んでいて容易に分かるように配慮したつもりではあるが、記述は口述と比べ起伏・抑揚をつけるのが難しい。その点を読者の側でカバーして欲しいのである。重要な部分の見当がついてくると、全体の構造の理解が容易になるので、このことを是非頭に置いて読んでほしい。
2. (1)さて、1回目を読み終えたら、2回目である。今度は精読し、分からないところなくなるように、完全な理解を目指す。
 - (2)1回目の読了で全体の大まかな配置・構造が頭に入っているはずであるから、今度は各部分間の関連にも気を配りながら読む。叙述の都合で、後の方で行う説明の理解を前提にした記述を前の方で行わざるをえないこともある。そうした部分は、最初に読んだときには理解が困難ということも多いと思うが、2回目には後の方を参照しながら読むことで、ずっと理解が進むはずである。
 - (3)しかし、そのように全体を関連づけながら読んでも、どうしても理解できない部分が生じることもありうる。それは、筆者の説明のまずさも原因であろうが、筆者と読者の相性ということもある。個々人は独自の思考様式をもっており、どうしても波長が合わないこともあるのである。そのよう場合には、たとえば後述のような他の参考文献に当たって調べるのが

よいであろう。

3. (1)憲法の考え方を自己の思考の中に定着させ、日常生活のなかで応用・実践しうるようになるためには、教科書を理解したというだけでは不十分である。より重要なのは、憲法的な思考様式であり、それは、教科書で学んだ細かなことを忘れてしまった後に、思考の深層に沈殿・定着して残るものだと私は考えている。
- (2)我々は、学んだことの大半を時とともに忘れていく。しかし、学ぶ過程のなかで体得した思考の骨格は、簡単には忘れない。その体得こそが、いま憲法を学ぶ目的なのである。そのためには、憲法の骨格を把握する必要がある。憲法の骨格は憲法全体の構造・体系を支えるものであり、憲法の教科書は、通常、著者の把握した体系に従って構成されている。その体系を理解し、憲法の立体的構造を把握することが、3回目の読書の目標である。
- (3)目次を参照しながら、全体がどのような指導理念で組み立てられているのか、各章、各部分が全体の中でどのような位置づけとなっているのか、相互にどのような関連を有しているのかを考え、確認しながら読んで欲しい。それにより、憲法のより深い理解が可能となり、憲法的思考が身についていくはずである。なお、事項索引に挙げてある項目は、憲法学上の重要な用語である。それを見るだけで、その意義がすぐ頭に浮かぶ程度にまで学習されることを期待するが、同一の用語が数カ所に出てくるようなものについては、その用語が用いられる複数のコンテキストの関連を理解することが体系の理解を進める役にも立つから、事項索引のそうした利用方法も活用されるとよいだろう。

P373 ~ 375

<コメント>

1. どのように憲法のテキスト(教科書)を学習したらよいか。東京大学教授の高橋先生の「学習の手引き」は、すべての教科の勉強にあてはまる。
2. テキストは3回読む。まず1回目は、「テキストを最後まで読み切ること」が大事だ。
3. 2回目は、「精読」して「分からないところがなくなるように完全な理解を目指す」。
4. 3回目は、「今学んでいる教科のテキストの立体的構造を把握する」。そのために、①「目次を参照しながら、全体がどのような指導理念で組み立てられているのか」、②「各章・各部分が全体の中でどのような位置づけになっているのか」、③「相互にどのような関連を有しているのか」などを確認しながら読む。
5. 是非、実行してみてください。

2019年10月1日(火)